

令和8年度 東京都立国分寺高等学校
推薦に基づく選抜
小論文

注 意

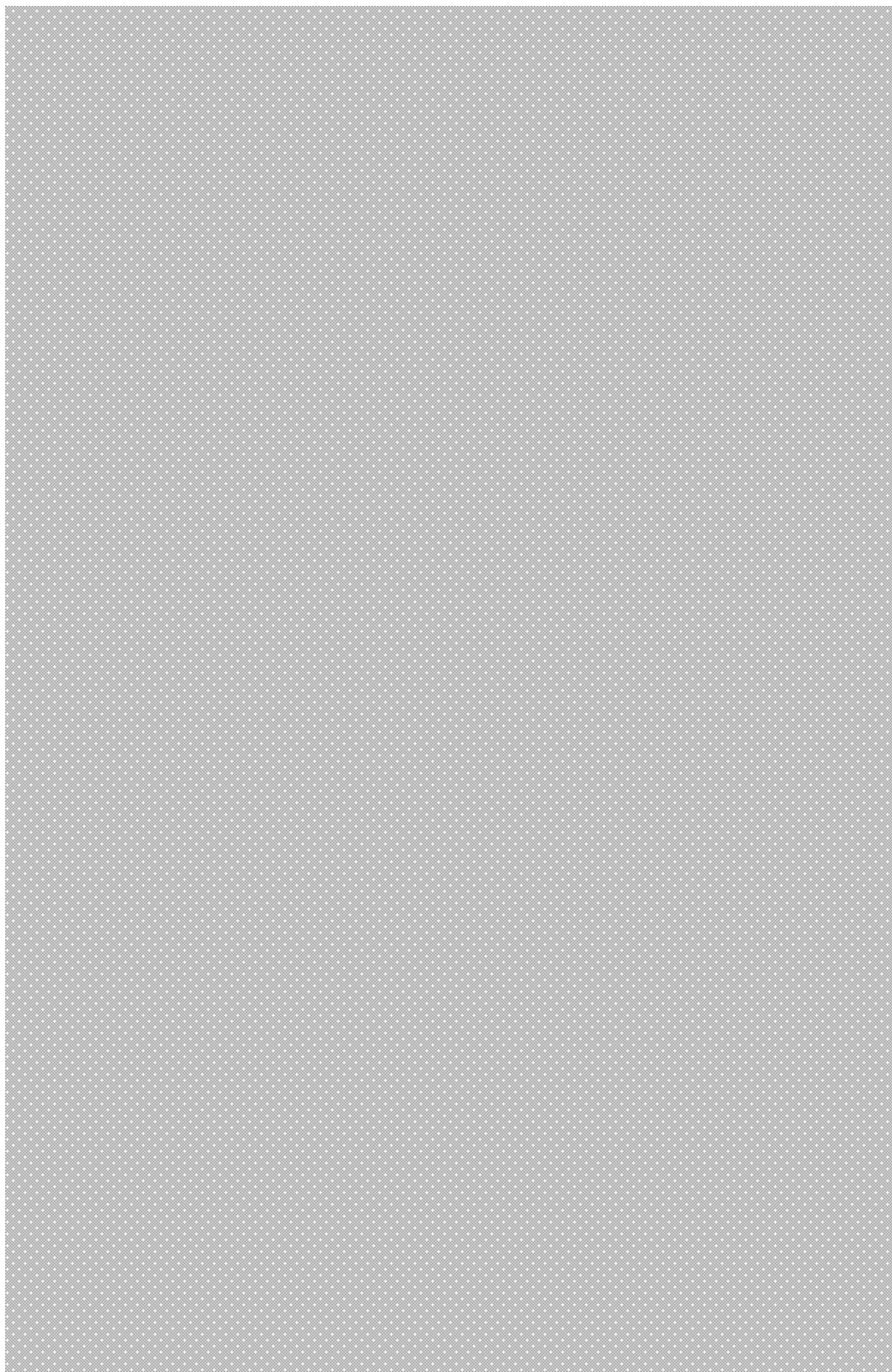
- 1 問題は

1

 と

2

 で、5ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**50分**で、終わりは**午後0時5分**です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に横書きで明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい**。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 書き出しや改行の際には1マス空けなさい。
- 7 原稿用紙の使い方に従って「」、。などのほか、書き出しや改行の際に空けたマスもそれぞれ1字と数えなさい。
- 8 下書きやメモはこの問題用紙の余白を利用し、解答用紙の余白には何も記入してはいけません。
- 9 検査中に印刷不鮮明、解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
なお、問題の内容に関する質問は一切できません。
- 10 数字、アルファベットを用いる場合は、1マスに2字までとします。
- 11 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。



次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

AI（人工知能）の急速な発展が、社会に革命的な変化をもたらしている。ユーザーとしては、これまで難しかった作業の多くが一瞬で解決する経験に驚くことが多い。一方で、その驚きが大きければ大きいほど、労働者としては「AIに職を奪われる」という懸念^{けねん}を強く持つことになる。

新しい技術が導入される際に労働者が職を奪われること、それに対し労働者が反発することは、どちらも歴史を振り返れば珍しい現象ではない。技術革新は常に労働者の仕事を奪ってきたし、産業革命時代の蒸気機関導入時のラッドライト（機械うちこわし）運動のように新技術の登場による社会的摩擦も不可避であった。それでも、技術革新は大きな恩恵をもたらし、長期的にはより良い社会を達成する原動力になると信じられている。特に経済学者は、一般に分配よりも効率性を重視する傾向が強いため、技術革新を基本的に望ましいものと考えている。

しかし、興味深いことに、その経済学者ですら今回のAI革命については「長期的にはプラス」という楽観的な見方に*コンセンサスが得られず、否定的な論調が根強い。その急先鋒^{きゅうせんぽう}となっているのが、*MITのダロン・アセモグル教授である。アセモグル教授は、2024年に社会制度と経済成長の関係を明らかにした業績でノーベル経済学賞を受賞しているが、AIのインパクトについても多くの研究をしている。

そのアセモグル教授は、AIによって雇用の喪失、賃金停滞、所得格差の拡大などが起きると警鐘を鳴らしている。もちろんAIの発展そのものが悪いと言っているわけではないが、これまでの技術革新との違いを理解し、うまくコントロールする必要があると指摘している。

これまでの技術革新とAI革命の違いとして、第一に、影響を受ける労働者の範囲が明確でないという点が挙げられる。AIは「ジョブ（職）」ではなく「タスク（作業）」単位で人間を代替する。高度な技能を持つ労働者でも、特定のタスクについてはAIに代替される可能性がある。AIは*非ルーチンタスクもこなせるため、*ホワイトカラーや専門職など知的な判断や創造性を必要とする仕事にも影響が及ぶ。どのような労働者がどれだけの影響を受けるのか予測が難しく、結果として技能の習得などの人的投資は困難になる。

第二に、AIは人間の労働を「補完」するより「代替」する性格が強い点がある。蒸気機関やコンピュータが導入された際には人間の身体能力や情報処理能力を補完することでジョブの価値を高めたが、AIは一部のタスクを完全に代替することでジョブの価値を低下させる。これは全体としての雇用を減らし賃金を下げる要因になる。

第三に、A I がもたらす技術が必ずしも社会的に望ましいタスクに使われていない点である。たとえば、A I は視聴時間やクリック数の最大化のために中毒性の高い*コンテンツや扇動的な情報を流す*アルゴリズムとして活用される。こうしたA I の利用は、人間から注意力や時間を収奪するだけで、社会全体の生産性を改善しない。

こうした違いは、これまでの技術革新と比べて、技術が労働を代替する効果を大きくするが、生産性向上を通じた規模拡大による労働需要増加効果は小さくする。結果として、A I 革命においては、社会全体での雇用が縮小し、賃金が停滞する可能性が高いと考えられているのである。

A I はまだまだ発展途上であり、今後の使い方や設計次第では社会の発展をもたらす可能性はある。そのためには、社会でA I が職を奪うのではなく、職を生み出すように方向づけしていく必要がある。

(宇南山卓「日経研月報」2025. 6-7月号 「明日を読む A I は仕事を奪うのか」による。なお、設問の都合で原文を一部省略した。)

〔注〕 コンセンサス —— 意見の一致。合意。

M I T —— マサチューセッツ工科大学。

非ルーチンタスク —— きまりきってはいない作業。

ホワイトカラー —— 事務労働者。

コンテンツ —— 中身。内容。

アルゴリズム —— コンピュータなどで、演算手続きを指示する規則。

問題

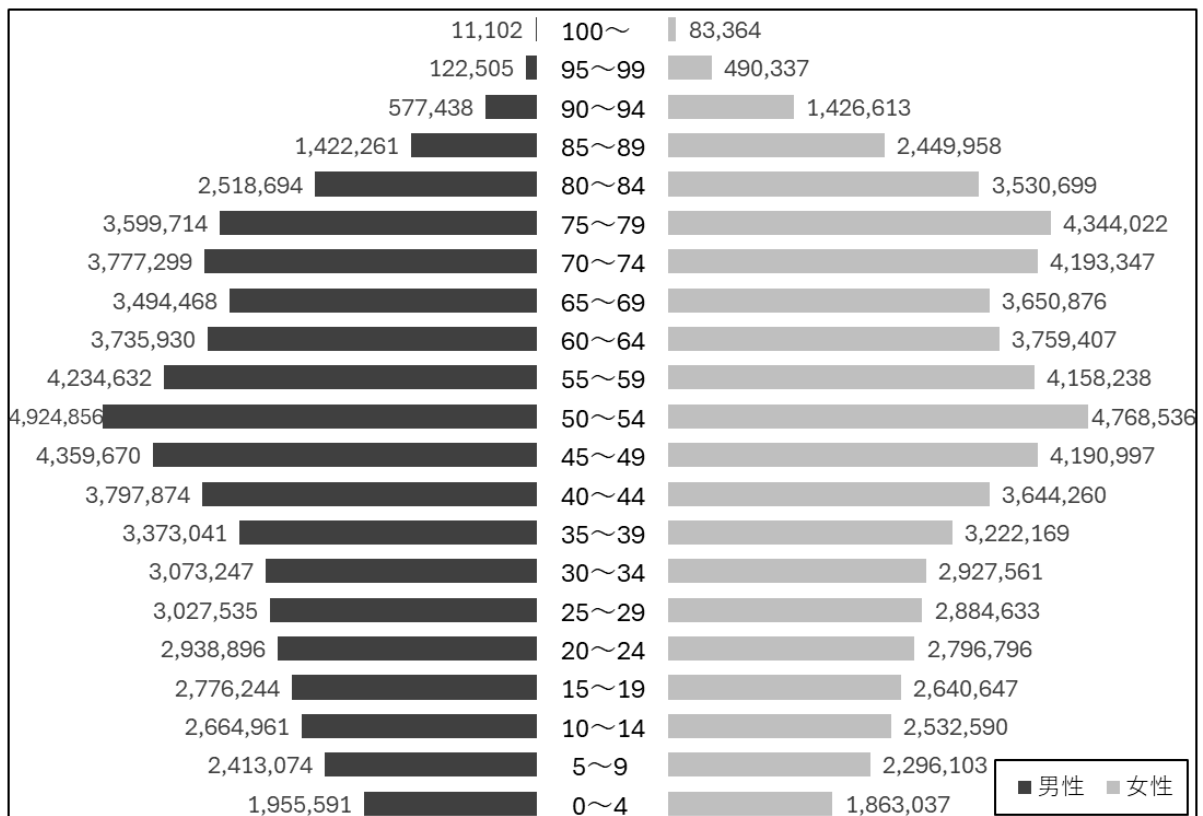
- (1) 本文中で最も印象に残った課題を一つ取り上げ、その課題を解決するために社会として何ができるか、述べなさい。その際、字数は問わないものとする。
- (2) 本文の内容を踏まえて、あなたはA I が急速に発展した社会を生きるうえで、最も大切にしたい「人間の力」は何だと考えるか、200字以内で述べなさい。

〔 余白 〕

次の資料1人口ピラミッド（全国の年齢階級別人口 日本人住民 令和7年人口）と資料2日本の歳出構成の推移を見て、あとの問題に答えなさい。

〔資料1〕

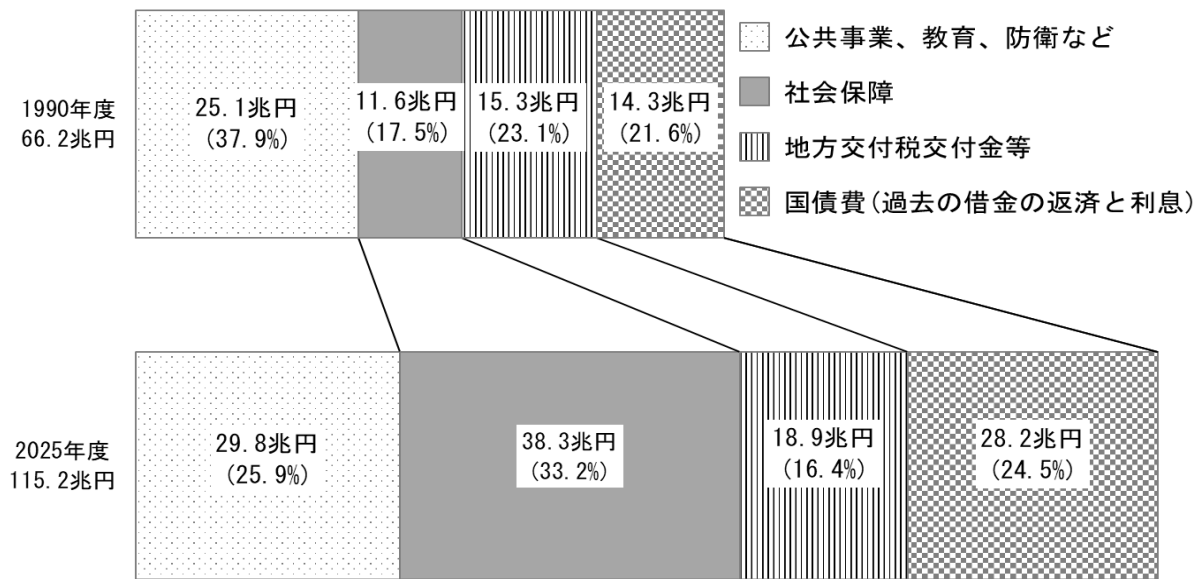
人口ピラミッド（全国の年齢階級別人口 日本人住民 令和7年人口）



（総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和7年1月1日現在）」より作成）

〔資料2〕

日本の歳出構成の推移



(財務省「これからの日本のために財政を考える」より作成)

問題

資料1と資料2から読み取れる日本社会の将来的課題を述べなさい。また、世代間で支え合って課題を解決するためにはどのような社会を作っていくことが必要だと考えるか、200字以内で述べなさい。